

エコ歴史しん間

発行者
 邑楽町立中野小学校
 大川 恵里奈
 中 繁美紅
 小 山 かなめ

私たち6年生は、社会科で歴史の勉強をしています。昔の人は、環境問題についてどのように考えていたのか調べてみることにしました。



昭和・平成 Mottainai

環境問題のキーワード

いつの時代もものを大切にしています。ケニアの環境大臣ワンガリ・マタイが「美しい言葉」を世界に伝えたいと活動しています。

その言葉は「モッタイナイ」

江戸ECO物語

肥料にしろ、昔も有機肥料を使っていた。江戸時代は、肥料が貴重だった。今では、化学肥料が主流だが、江戸時代は、糞尿を肥料として使っていた。木を削ると、木くずや屑を回収して再利用する。空きの樽を回収して再利用する。灰を買い集めて、灰を肥料として灰市などで売られる。下駄の歯入れ、下駄の修理や歯の交換。

石器や土器

再利用。このころは「ゴミ」という意識がなかったそうです。

再利用。このころは「ゴミ」という意識がなかったそうです。

Recycle (リサイクル)

日本の着物は、作り直して親から子へ、子から孫へと、ずっと着続けることができる。

Reduce (リデュース)

消費削減。無駄に使わない・作らない。ゴミを出さないことが環境にもやさしいということ。

Reuse (リユース)

再使用、まだ使えるものもたくさんあるはず。「あさがり」はリユースの良い例です。

平安 貴重な紙

平安時代は紙が貴重で、紙を大切に扱っていた。平安時代のお化粧は、白い粉を使っていた。だから、白い紙が貴重だった。

地球温暖化防止のために 私たちがやるべきことは...

学校で六年生八十人にアンケートをとった結果、

- 紙、雑誌、パン、あきかん、ペーパーなどリサイクル 48%
- 節電、節水、節油 34%
- その他 13%
- その他 5%

まずは、知ることに!!

足尾銅毒事件とたたかた 田中正造

田中正造は、1841年、栃木県安蘇郡に生まれました。1874年に渡良瀬川の鉱毒事件が起きました。渡良瀬川は、川上にあつた足尾銅山で、銅を採るために、川に毒がまみれ、魚が死んでしまいました。田中正造は、この事件で、農民たちとたたかいて、足尾銅山の閉鎖を求めました。田中正造は、この事件で、農民たちとたたかいて、足尾銅山の閉鎖を求めました。

めぐせ遊水池!! 30kmサイクリング
 ~田中正造の歩んだ道から環境問題を見つめよう~